

## 令和5年度宇城支部の取り組み

記録者: 本田壮平 (宇城市立河江小学校)

### 1 研究テーマ

「児童が思いを伝え合う喜びを味わうことができるコミュニケーション活動の充実」

～わくわくするような目的・場面・状況を意識した活動の工夫～

### 2 研究のあゆみ

期 日	場 所	内 容
R5.5.8(月)	宇土市立宇土小学校	第1回教科等研究会
R5.7.7(金)	宇土市立宇土小学校	第1回研究委員会
R5.7.27(木)	宇土市立宇土小学校	第2回教科等研究会
R5.10.6(金)	宇土市立宇土小学校	第2回研究委員会
R5.11.13(月)	宇土市立宇土小学校	第3回教科等研究会

### 3 実践内容

- (1) 第1回教科等研究会
  - ① 組織作り(研究委員の選出及び研究委員長の決定)
  - ② 本年度の取組について(研究主題及び年間計画の決定、研究授業について)
- (2) 第1回研究委員会
  - 第2回教科等研究会について
    - ア 研修内容の立案(第1回参加者に実施したアンケート結果をもとに2部構成)
    - イ 当日の日程調整、役割分担
- (3) 第2回教科等研究会
  - ① 研修1 講話「外国語活動・外国語科の授業づくりについて」  
講師 宇城教育事務所 中村 繁徳 指導主事
  - ② 研修2 演習「2学期以降の単元のゴールづくり(学年別)」  
コーディネーター 当尾小学校 馬場 郁子 教諭
- (4) 第2回研究委員会
  - 第3回教科等研究会「授業研究会」について
    - ア 指導案の検討
    - イ 当日の役割分担について
- (5) 第3回教科等研究会
  - 研究授業  
宇土市立宇土小学校 5年3組 Unit 7 Welcome to Japan.  
授業者 T1 長尾 綾子 教諭(英語専科) T2 Croydon Gaskell (ALT)
  - 授業研究会  
助言者 益城町立益城中央小学校 原口 順子 指導教諭

## 4 研究の成果と次年度への課題

### (1) 第2回教科等研究会(半日研)について

#### ① 成果

- ・研修1では単元構想の考え方について、共通理解をすることができた。指導主事からは授業づくりで大切にしたい視点として、①単元のゴールを設定し、そのゴールに向けた目的や場面、状況など必然性のある本物の活動を組み込んでいくこと、②教科書を活用しながら、児童の実態に応じて教材を工夫していくこと、③small talk を適宜入れたり、児童同士のやり取りを意図的に仕組んだりして本当に言いたいことを伝える活動を充実させること、の3点を紹介していただき、参加者からは今後の授業づくりに大変参考になったと感想が聞かれた。
- ・研修2では、2学期(夏休み明け)以降の単元について、各 Unit の評価や取り扱う内容(言語材料)を確認し、それぞれのゴールを考える演習を行った。学年別でグループを作り、ゴールを達成するために必要な活動を考え、バックワードデザインで簡単な計画を作成することができた。

#### ② 課題

- ・作成した「単元のゴール一覧」はそれぞれの学校で共有し、参加者以外の先生方にも授業づくりの際に心がけたいこととして紹介してもらいたい。参加者の先生方(特に専科のない学校)には、外国語の授業における推進役となっていていただく必要がある。
- ・教材の作成やアクティビティ(教科書以外)については、各学校で差があるようだった。英語専科の先生方が積極的に作成されているため、可能であれば様々な学校で共有したい、という要望があった。今後検討していく必要がある。

### (2) 第3回教科等研究会(授業研)について

#### ① 成果

- ・単元のゴールを「ALTの家族に日本のことを紹介する」と設定することで、他者意識を持ちながら活動に取り組んでいるようだった。「伝えたい」「知りたい」という児童の思いを大切に単元の構成で、ICTの活用(パワーポイントでスライドを作成)も意欲アップにつながると実感できた授業であった。
- ・音声によるインプット、文字によるインプットと段階的に指導されていた。十分慣れ親しんだ表現であるからこそ、無理なく読んだり、書き写したりすることができていた。
- ・参加者からは、「参観してよかった」との声が多数寄せられた。

#### ② 課題

- ・児童に音声や文字でインプットする際には、情報過多にならないように心がけたい。書くこと(文字によるアウトプット)については、児童が「読んでもらいたい。書きたい」と感じられるよう目的や場面を考慮する必要がある。
- ・中間指導については、活動状況を見届けながら、児童の意欲をさらに高められるような、変容につながるような声かけを行う必要がある。



### (3) 外国語活動・外国語部会の取組について

担任主導、ALTとの複数体制、そして英語専科による指導と各学校により授業形態が異なるが、参加した先生方にはそれぞれの立場で多くの気づきがあり、充実した研修となった。外国語の授業では特に失敗を恐れず、認め合える雰囲気作りが大切であり、「できた」「わかった」と児童が自分の成長を実感できる授業を目指して、今後も研究を進めていく必要がある。